

第 30 回 ISO/CASCO 総会報告

2014 年 9 月 24 日～25 日に、スイスのジュネーブで、ISO/CASCO(適合性評価委員会)の総会が開催された。総会には、CASCO のメンバー国及びリエゾン団体の代表者が参加し、日本からは JISC(日本好評標準調査会)の代表として 1 名が出席した。主な議題と内容は次の通りである。

(1) 議長の報告

Mr. Lane Hallenbeck (ANSI) は、2014 年から 2 期目が始まり、2015 年が任期最後となる。CASCO は特に発展途上地域のメンバーの参加が増えるように努力してきており、ボゴタ、北京での総会開催は、近隣の途上国メンバーの参加を促進するものだった。2016 年は UAE で開催予定であり、中東・アフリカ諸国の参加促進が期待される。最近開発された(又は開発中の)適合性規格は、ISO/IEC TS 17021-4 から-7 までの各力量要求規格をはじめとして ISO/IEC TS 22003 等 JWG で作成されたものが多く、いろいろなセクターが適合性評価に関心を示している。また、CASCO は新たに WG を設置して ISO/IEC 17011、Guide 34、ISO/IEC 17025 の改正に着手する。

昨年の北京総会では新たな開催方法に取り組んだ。初日に各 WG のセッション、2 日目にはラウンドテーブルディスカッションで取り組むべき主要課題を論議、3 日目はサービス認証に関するミニワークショップを開催し、成功裏に終えた。今年は、昨年のフィードバックを受けたワークショップを開催する。

発展途上国の参加促進については、DEVCO のスポンサーシップにより数名のエキスパートが WG に参加できた。今年は、規制当局向けのオンラインツールの地域ワークショップを 2 回予定し、途上国の参画を促進する。また、CPC には 4 名の発展途上国枠があり(ブラジル、コロンビア、ケニア、中国)、途上国での適合性評価の課題が提起されている。

(2) 書記の報告

- ①MS 規格に関して ISO に寄せられた苦情(全 180 件、'13 年 9 月～'14 年 8 月)
 - ・地域別内訳 ; アジア 37%、欧州 21%、北米 17%、アフリカ 5%、中南米 4%、中近東 3%、オセアニア 3%、その他 10%
 - ・認証機関名 : 不明(無し) 68%、有り 32%
 - ・ISO 9001 に関する苦情 ; 77%、CB・AB に関する苦情 ; 5%、その他の規格 ; 18%
- ②解釈明確化要請(2013 年 10 月から適用された新プロセス) ;
 - ・4 件 (ISO/IEC 17020、17043、17024、17065 に関するもの)
- ③CASCO ツールボックスの普及促進
- ④コミュニケーション (e-newsletter、新加入メンバー向けプロモーションビデオ、E-committee など)
- ⑤規制当局向けプロジェクト

(3) MSS 認証数に関する ISO サーベイ結果

- ・民間調査会社（Nielsen 社）に調査を委託して実施。
- ・認証件数はグローバルで増加傾向にある。各 MS の増加率は次の通り。
 - －ISO 9001 ; +3%
 - －ISO 14001 ; +6%
 - －ISO/IEC 27001 ; +14%
 - －ISO/TS 16949 ; +7%
 - －ISO 13485 ; +15%
 - －ISO 22000 ; +15%
 - －ISO 50001 ; +116%
- ・調査回答が前年と大きく異なる場合は、調査会社が回答者に理由を確認している。
- ・どの CB が調査に「回答した」／「回答していない」については答えられない。

(5) IEC/CAB の報告

IEC/CAB 議長の藤澤氏により IEC の適合性評価システムの最新状況についてプレゼンテーションが行われた。IEC は、IECEE, IECEX 及び IECQ の 3 つの適合性評価システムを長年運用してきたが、今年から新たに IECRE という再生可能エネルギー（風力発電、海洋発電、太陽光発電）を対象とした 4 番目のシステムの運用を公式に開始した。これらの設備は大型なものが多く輸送も大がかりとなるため輸送部分の認証もある。最初の再生可能エネルギーマネジメント委員会（REMC）が 9 月に米国で開催されている。

なお、藤澤氏は今期で IEC/CAB 議長の任期満了となるため、同氏のこれまでの長年の CASCO への貢献と参画に対して感謝の決議が行われた。

(6) ラウンドテーブルディスカッション

前日に開催されたラウンドテーブルディスカッションにおいて、次のような意見、提案が出された。

これらの意見、提案については次回の CPC 会議で論議することが事務局から説明された。

- ・発展途上国の参加支援策
 - －WebEx 設備の完備したジュネーブはよいが、あらゆる地域で開催する方がより良い
 - －DEVCO 関係の参加のために総会を地域で開催すべき
 - －規格に関するより多くの情報をオンラインツールで提供する
 - －WG 会議に直接参加しにくいエキスパート向けに WebEx 会議、TV 会議が有効
- ・コミュニケーションの強化策
 - －情報はタイムリーであること、及びバランス（秘匿と透明性のバランス）が重要
 - －進捗状況レポートを共有することが有効
- ・適合性評価における信頼性を維持するための方策

- －CASCO ツールボックスの活用
- －セクターに適した規格の開発、適用
- －ケーススタディの充実
- ステークホルダーフォーラムの開催成功のためには？
 - －何か“魅力的”なイベントと関連させて開催する（例；貿易フェア、地域行政会議）

(7) 次回以降の総会の開催

- 2016 年総会；
 - －開催国；UAE
 - －ホスト；ESMA (Emirates Authority for Standardization and Metrology 首長国規格・検量協会) 及び QCC (Quality and Conformity Council 品質及び適合性協議会)
- 2017 年総会；
 - －開催国；カナダ
 - －ホスト；SCC (Standard Council Canada カナダ規格評議会)

以上